

北海道で遭遇する動物たちと私たちの

11月号の「北海道、でっかい道！」に続いて、でっかい北海道で遭遇する動物たちと生活の関わりをテーマに整理しました。

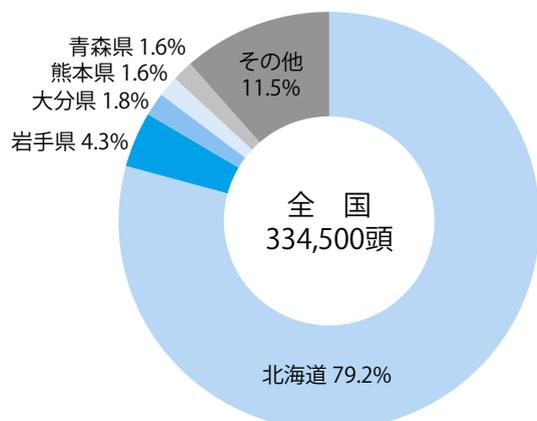
牧歌的景観と放牧頭数

「でっかい北海道！」をイメージする代表的なものとして、広大な草地に放たれた牛がゆっくり草を食^はんでいる北海道の牧歌的風景があげられる。北海道で当たり前のように出会える牧歌的風景は、統計的にどう裏付けられているのだろうか。

北海道は全国の家畜牛放牧頭数、約37万2500頭のうち、ほぼ80%に当たる約29万7200頭を放牧しており、家畜牛の放牧景観は北海道が寡占的な状況にあることがわかる。

また、道外の畜産農家で飼育牛を放牧している農家が1割であるのに対して、北海道では6割の農家が放牧しており、畜産牛飼育農家の多くが牧歌的な景観づくりに貢献している。

図1 家畜乳牛放牧頭数の割合



※ 総務省統計局「畜産統計調査」(平成27年2月1日調査)から作成。
 ※ 頭数は乳用牛と肉用牛を合計した。

図2 家畜乳牛放牧戸数の割合

	飼養戸数	放牧戸数	放牧実施戸数割合
全国	125,400	18,740	14.9%
全国(北海道除く)	113,570	12,110	10.7%
北海道	11,830	6,630	56.0%

※ 総務省統計局「畜産統計調査」(平成27年2月1日調査)から作成。
 ※ 頭数は乳用牛と肉用牛を合計した。

北海道で出会える動物の多様さ

「でっかい北海道！」のイメージを支えるものに、自然の多様さがある。空間的な広さだけでなく、多様な生物と出会える機会の多さが「でっかい北海道！」の奥行きを感じさせている。それらの動物が普段なかなか見られない、珍しければ珍しいほど深い自然を感じ、「でっかい北海道！」を形成する。さらに、北海道では生活域と隣接してヒグマが出没し、生活域の中にまでキタキツネが棲みついたりするため、余計に北海道は自然の中にあると印象づけをしている。

北海道と本州との動物相の違いから、津軽海峡を生物の分布境界とするブラキストン線^{*}が知られている。キタキツネ、エゾヒグマ、エゾシマリス、エゾナキウサギ、エゾシカなど多くの動物の「エゾ」という冠で、その特徴を表している。

図3 ブラキストン線イメージ



図4 北海道周辺における海獣類の分布状況



※ 国立国会図書館「海獣類による漁業被害」

※ **ブラキストン線**
 本州と北海道との間に引かれた生物分布境界線。1890年ブラキストンとH.プライヤーが鳥類の分布調査から提唱。現在では鳥・魚類の分布が修正されるなど、以前ほどこの境界の意義は認められていない。津軽海峡線。

生活!

ヒグマ、エゾシカ、トド、アザラシなどの生活産業への影響と生物との共存

北海道で出会える多様な生物のなかでも、ヒグマやエゾシカ等野性動物やトド、オットセイ、ゼニガタアザラシなど海獣類は、その昔は開拓による森林の伐採、毛皮や食肉利用のための乱獲により頭数を急激に減らしたり、その結果エゾオオカミのように絶滅した種もいる。

そうしたなかで、生態系の維持、生息地や種の保全

のための野生動物の保護などにより、近年は、個体数の回復にとどまらず、その急激な増加が農林水産業へ被害をもたらしたり、道路や鉄道への侵入により交通事故をひき起こしたりもしている。

北海道らしい自然豊かな「でっかい北海道！」を残していくためには、牧歌的農村景観や自然生態系を適切に維持保存していかなければならない。

図5 ヒグマ、エゾシカ、トド等海獣類の生息状況や生活産業への影響

	ヒグマ	エゾシカ	海 獣 類			
			トド	オットセイ	ゼニガタアザラシ	ゴマフアザラシ
生息状況	2,700頭 (2000年度以降の調査資料の集計による中央値) 3,423頭 (階層ベイズ法による推計中央値) ※平成22年度特定哺乳類生息状況調査報告書(自然環境保存基礎調査)	542,848頭 (階層ベイズ法による推計中央値) 平成22年度特定哺乳類生息状況調査報告書(自然環境保存基礎調査)	約5,800頭	キタオットセイは、日本への来遊集団と関係の深いロシア繁殖島個体群の生息数は概ね平衡状態にある。しかし国内海域への来遊数や、日本近海での混獲による死亡率などの現状に関する知見は乏しく、(中略)1998年以降は不明である。	北海道沿岸での最大の上陸個体数は、1,089頭となり、個体数は回復傾向にある。	個体数は近年大幅に増加しており、最大の上陸場がある礼文島では、冬期の確認個体数が2003年3月の69頭から2012~13年の1,080頭まで伸びている。周年定着個体数も増えており、2013年夏期には礼文島で605頭が確認された。
種の保存状況への評価	IUCN レッドリスト (IUCN:国際自然保護連合)	軽度懸念 (Least Concern)	準絶滅危惧 (Near Threatened)	絶滅危惧II類 (Vulnerable)	軽度懸念 (Least Concern)	情報不足 (Data deficient)
	環境省 レッドリスト	石狩西部および天塩・増毛地方のエゾヒグマが「絶滅のおそれのある地域個体群(LP)」に指定	評価対象外または未評価	準絶滅危惧 (Near Threatened)	評価対象外または未評価	絶滅危惧II類 (Vulnerable)
生活産業へのかかわりなど	ヒグマの人間生活域への接近が見られるため、捕獲等が行われている。	近年、農業被害が甚大であるため、捕獲等による頭数管理への取り組みが強化されている。	近年、動物ウォッチングなど観光利用がなされているところもある。			
農林水産業への被害など	1億3千万円 (平成26年度北海道調べ)	約46億円 (平成26年度北海道調べ)	北海道では、海獣類(トド、ゼニガタアザラシ、ゴマフアザラシ、オットセイ)による漁業被害が年々増加しており、平成25年度の被害額は約28億円に上った。そのうち、トドによる被害が約19億7,900万円で約7割を占めている。 (平成25年度)			
個体数管理計画	北海道ヒグマ保護管理計画(北海道)	北海道エゾシカ管理計画(北海道)	「トド管理基本方針」(水産庁)	「オットセイ基礎調査検討協議会」を設置し、被害軽減手法検証中(北海道)	「環境省えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理計画」(環境省)	「北海道アザラシ管理計画」(北海道策定中)
交通事故発生件数	・道路や鉄道に侵入して引き起こされる交通事故が急速に増加している。平成16年1,170件、平成21年1,838件、平成26年1,940件(北海道警察本部交通部交通企画課資料)		参考文献:国立国会図書館調査および立法考査局農林環境課((齊藤真生子)「海獣類による漁業被害」(2015.1.22)) 平成11~12年度(1999~2000年度)「海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査(鰐脚(ききゃく)類及びラッコ生息調査)」(平成14年3月環境省自然環境局生物多様性センター) 平成25年度鳥獣別による被害金額 野生鳥獣被害金額調査(H25年度庁調べ) 第4次レッドリストの公表について(お知らせ)(平成24年8月28日環境省) 平成22年度特定哺乳類生息状況調査報告書(自然環境保存基礎調査)(環境省)			